

広報委員会 国内外情報発信強化分科会
(第 26 期第 2 回) 議事概要

1. 日 時 令和 6 年 3 月 28 (木) 16 : 00 ~ 18 : 00
2. 場 所 オンライン開催
3. 出席 者 狩野委員長、関谷委員、中村委員、瓜生原委員、隠岐委員、加納副委員長、岸村委員、
高田委員、森日本学術会議アドバイザー

4. 配布資料

- 資料 1 国内外情報発信強化分科会委員名簿
資料 2 第 1 回国内外情報発信強化分科会議事要旨 (案)
資料 3 アクションプラン
資料 4 第 26 期パンフレット構成案 (広報委員会 (第 1 回) 資料 3)
資料 5 Leopoldina 関係資料
資料 6 日本学術会議ホームページの歴史・沿革
資料 7 日本学術会議メディアの現状
参考 第 25 期パンフレット、第 24 期パンフレット

5. 議 事

- (1) 資料 3 に基づき、狩野委員長より第 26 期日本学術会議アクションプラン及び日本学術会議アクションプラン企画ワーキンググループの審議状況等について説明があった。
- (2) 資料 4 に基づき、狩野委員長より第 26 期のパンフレット作成について、広報委員会や国内外情報発信強化分科会での議論等について説明があった。
- (3) 資料 5 に基づき、狩野委員長よりドイツ科学アカデミー・レオポルディーナの広報活動等について説明があった。
- (4) 資料 6 に基づき、隠岐委員より第 26 期パンフレット作成における、日本学術会議の歴史・沿革の掲載について説明があった。
- (5) 資料 7 に基づき、森広報アドバイザーより日本学術会議の情報発信メディアの現状について説明があった。

(意見交換)

○外部への情報発信について

- ・ウェブサイトは今やパンフレットよりはるかに重要な情報発信ツール、多角的に全年齢層に訴えられるコンテンツをしっかりと作り、鮮度の高い情報を常に発信していくことが重要な視点である。
- ・若い世代や社会に訴求していくことが大事である。

○学術会議パンフレットについて

- ・日本学術会議の歴史・沿革を掲載していくのも重要である。
- ・年表を載せるということではなく、学術会議が担ってきた役割、成果、背景など、学術会議がこれまで

何をしてきたかというところも重要である。

- ・パンフレットも情報が新しいことが重要、QRコードを載せてホームページへ誘導し、そこはフレッシュな情報にしておくこと。
- ・パンフレットだけを読んで判断するというより、説明側が説明しやすいような情報にすることということも重要で、逆に内容はあまり変えないという判断もある。
- ・構成については、順番を変える、写真などインパクトがあるものにするのも大事となる。
- ・科学者の卵を育てるような、科学者の面白さ、科学者の魅力など高校生向けのパンフレットもあればよい。
- ・外国語や顔校正向けも大事だが、学協会との連携のためのパンフレットも重要である。
- ・パンフレットにこだわらず、リーフレットにしてホームページへの誘導という形もあり得る。
- ・デザインやターゲットも重要であるが、そもそも何をやっているところなのかということ表現する時に何をピックアップするのか、編集責任が必要となる。

○学術会議ホームページについて

- ・ホームページの古いコンテンツや歴史などをアーカイブ化も大事、電子資料館のような意味合い。海外のアカデミーでもすでに始まっている。
- ・ウェブサイトになるべく最新の情報をわかりやすい形での掲載が必要であり、そのための予算措置は必須である。
- ・予算や人の問題はあるが、構造は変えなくても見せ方を変えることで初めて訪問する人にとっては違って見えることもある。文字のフォントを変える、ポイントを変える、構成の順番を変えるだけなどできることをやっていくことも重要。
- ・情報源を適切に取捨選択するような組織構造の検討も必要である。